

横浜 SSJ ニュース

第 24 号
2017 年 10 月 25 日発行

発行：横浜 SSJ（特定非営利活動法人横浜市精神障がい者就労支援事業会）

〒232-0022 横浜市内南区高根町 3-17-12 KS ビル 6 階

TEL 045-315-2622 FAX 045-315-2623

発行責任者：理事長 菊地 綾子

編集：横浜 SSJ ニュース編集委員会

印刷：ワークショップメンバーズ

ゆるぎない歩み

理事長 菊地 綾子

今年の 5 月の総会後に横浜 SSJ は 10 周年記念祝会を行いました。市精連（30 周年）から独立して 10 年目を迎えたのです。一つの節目に事業の変更も行われました。①本部事務局移転 ②久保山・戸塚・北部事業所を就労継続支援事業 A 型事業所に。③カフェガーデンさらの運営を就労継続支援事業 B 型事業所ワークショップメンバーズに組込。特に援助付き雇用の場であった久保山・北部・戸塚を施設化したことは横浜 SSJ の大事な柱が揺らいでしまったような思いがいたしました。しかしながら、従業員、職員、関係機関の皆様のご尽力もありまして、順調に移行が進みはや半年を迎えようとしております。

当会は当事者を、主に現場のリーダー的な役割を担ってもらう形でパート職員として昇格し雇用してきました。現在 6 名働いていただいておりますが、この度団体内での公募という形で募集し数名増員することにいたしました。その際、説明会を開催したところ、多くの質問が出ました。「どのくらいの人をスタッフとして登用するのか？」という質問に対して、事務局長が「将来的には全員が当事者スタッフになってもよいと思っている」という回答を逡巡せずにしていたので、とても感動致しました。A 型になりましたので、管理者、サービス管理責任者、生活支援員等の援助職員の配置は必置ですが、それらスタッフは従業員の上司ではなく援助職員です。これまで以上に利用者（従業員）の皆さんに最賃を払って自主的に働いてもらえる場となったことを実感いたしました。来年の制度見直しの時期を迎え、精神保健福祉の分野も厳しい局面を迎えております。運営上様々な苦労はあると思いますが、働きたいと思う人が希望を持って働ける場としてゆるぎない歩みを続けていけるよう努力してゆきたいと存じます。

最後に、この 10 年を支えてくださった沢山の皆様に深い感謝を申し上げ、今後のご協力を切にお願いする次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

第11回総会・法人設立10周年記念式典

快晴の5月29日、横浜市開港記念会館の講堂で第11回総会が開催されました。また今年は2007年9月に横浜市精連の就労援助部門が横浜SSJとして独立して10年目を迎えるにあたり『横浜SSJ設立10周年記念式典』をあわせて開催しました。

10時、定刻となり冒頭に総合司会より総会成立の報告、来賓として横浜市会の菅野義矩様、浜家連の宮川玲子様、横浜市健康福祉局の江原顕様からご挨拶をいただいた後、議事を開始。2016年度事業報告、決算報告と2017年度事業計画、予算の報告を出席会員に説明しました。2016年度から2017年度にかけては、20年間にわたり独自事業として取り組んできた、久保山斎場をはじめとする横浜市からの受託事業の法内事業化、またそれに伴う本部事務局の移転といった、重要事業の一連の経過と、今後の計画について承認されました。また、今年度は理事改選の時期にあたり、青柳智夫理事と、鈴木弘美理事の退任と、新任として宮崎全代理事をお迎えする議案について承認されました。また理事会で互選を行い菊地綾子理事が理事長とすることが決まり、新体制でのスタートを切りました。総会の最後には、市精連時代から長きにわたりご尽力いただいた鈴木弘美理事が退任されるにあたり花束贈呈が行われました。

総会終了後、引き続き『横浜SSJ設立10周年記念式典』を開催しました。式典では横浜市会より高橋徳美様、古谷靖彦様、市精連の大友勝代表、家族会そして当会理事でもある鷹野薫様より祝辞をいただき市精連時代から横浜SSJ設立、そして今日に至るまでの経過説明を行い、理事長より10年以上の永年勤続者、従業員、職員9名が表彰されました。



式典終了後は場所を2階の部屋に移しカフェガーデンさらよりケータリングし立食パーティの形式で祝賀会を開催しました。祝賀会の司会進行は多機能型事業所の金子施設長とメンバーのAさんと担当、乾杯の発声は戸塚斎場売店で当事者スタッフとして活躍している、寒河江明広職員が音頭をとりました。乾杯の挨拶では、戸塚斎場売店の事業も来年はちょうど20周年を迎えるにあたり横浜SSJも20周年を目指して頑張っていきたいとの心強い言葉がありました。祝賀会では各事業所の紹介VTRを放映、式典で表彰された各永年勤続者より一言、その他、法人内外問わず、式典、祝賀会に参加いただいた方々のマイクリレーなどを行いながら10周年を祝いました。記念式典、祝賀会ともに横浜SSJの従業員や利用者、職員などの関係者が中心に参加のもと行われましたが、アットホームな雰囲気での記念行事となりました。

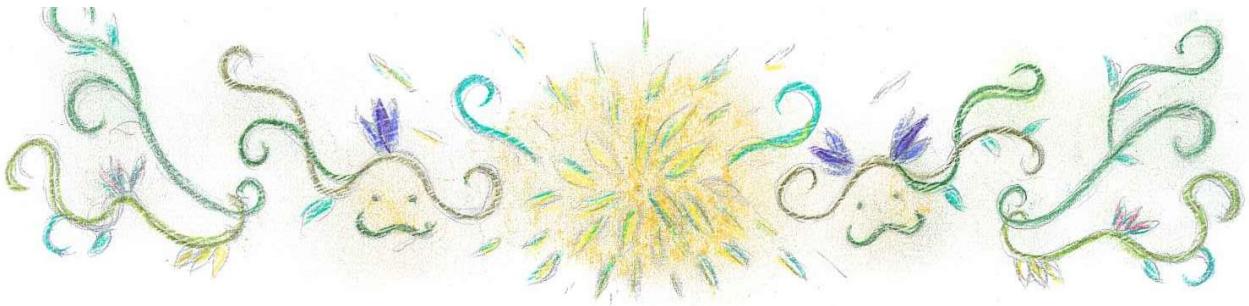


私自身12年前、市精連時代にジョブアシスト横浜という小さな地域作業所に入職、2007年に就労援助部門が独立し、今年10周年を迎えましたが当時、それ以前から今日の横浜SSJを築いてきた従業員、利用者が多くいることを大変、誇りに感じております。また、改めて振り返ると横浜SSJ設立後は決して順風満帆であったわけではなく山あり、谷ありの道のりでした。そうした中、歴代の理事をはじめ、数多くの関係者の方々のご協力、お力添えがあり一つ一つ乗り越えてくることができました。改めてこの場をお借りして感謝を申し上げます。

さて、横浜 S S J は今年 10 周年を迎えたとともに事業の柱である斎場を中心とした横浜市からの受託事業をこれまでの独自事業から、安定した事業継続と運営のために障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス(就労継続支援 A 型)へ移行、大きな転換期を迎えました。これまでは市精連会員を中心に作業所や事業所から推薦を受けたメンバーを雇用、斎場では従業員として働く場、生活面や体調管理面は利用者として推薦を受けた出身の作業所、事業所が支援してきました。しかし法内事業へ移行したことにより制度上、斎場で働く従業員＝利用者となり原則、出身の作業所、事業所との二重在籍は認められず、支援は受けられなくなってしまうという現実に直面しました。しかし、ほとんどの従業員は斎場で働き続けることを選択しました。横浜 S S J としても、事業形態は変わっても働くことのみならず、生活面全般にわたる支援をしながらこれまでのように事業運営をしたいと思っています。

最後に横浜 S S J 設立時から初代理事としてご尽力いただきました、齊藤惇先生(元横浜市総合保健医療センター長)が先日、永眠されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(横浜 SSJ 事務局長・星野 順平)



2018年度に向けての

精神障がい者就労支援事業に関する要望活動

横浜 SSJ の大きな活動の 1 つに、要望・陳情活動があります。今年度も、自民党、公明党、民進党、共産党の各党との政党懇談会で、要望書を提出しています。また、8 月には横浜市健康福祉局にも要望書を提出し、意見交換を行いました。今回、横浜 SSJ が要望としていくことは、以下の 3 点です。

①精神障がい者の働く場として横浜市委託事業の継続と障害者の店（目的外使用許可）の継続、拡大をしてください。

当会は精神障がい者の働く場として横浜市からの委託、目的外使用許可を受け市営斎場の湯茶接遇業務、駐車場管理業務、売店喫茶業務、病院外構清掃等、援助付雇用事業所として運営、常に約 60 名を雇用してまいりました。本事業は独自事業として運営、働く従業員は誇りをもって働いてきました。しかし本年 4 月より障害者総合支援法に基づく就労継続支援 A 型サービスとしての運営となり制度上、従業員は「サービス利用者」となりましたが、それでも安心して働ける場として就労しています。また本事業は開始当初から 20 年来働き続けている従業員をはじめ、高い職場定着率を誇っております。今後とも、当会が長年培った援助付き雇用のノウハウを活かし、多くの精神障がい者が誇りを持って、安心して、持てる力を十全に引き出して働き続けられる場を維持継続、そして拡大していただけますようお願いいたします。

②横浜市及び関係機関における精神障がい者雇用の拡大、充実化をしてください。

横浜市では平成28年度全市的な取り組みとして、知的障がい者を対象に非常勤嘱託員を採用しています。雇用期間についても年度毎に4回まで更新の可能性があります。一方、精神障がい者につきましては毎年、雇用期間半年～1年間で更新なしというかたちで取り組まれて5年目を迎えました。平成30年度の精神障がい者雇用義務化も踏まえ、健康福祉局における5年間の精神障がい者雇用のノウハウを活かし、横浜市が全国に先駆けて全市的な取り組みとして精神障がい者雇用の拡大、充実化をはかってください。

③職場定着支援事業を推進できるよう横浜市が連携の橋渡しをしてください。

平成30年度の精神障がい者の雇用義務化に向けて、企業では積極的に精神障がい者の雇用を推進しています。就労移行支援事業所をはじめとする障害福祉サービス事業者も、就労を希望する精神障がい者を積極的に一般就労へと送り出しています。一方で就労する精神障がい者は、安心して働ける職場環境や支援を求めています。現在、職場定着支援の新たな制度化が検討されていますが、横浜市におきましてはこの新制度を企業、就労支援センター、そして就労移行支援をはじめとする障がい福祉サービス事業所がうまく連携をとり、より安心して働くことができるよう橋渡しをしてください。

◆6月14・19日の政党懇談会に、ワークショップメンバーズのメンバー2名とともに参加してきました。緊張感漂う中、それぞれの思いを堂々と伝えてくれました。この声が障害福祉にかかわる制度を変える礎になると信じ、横浜SSJでは今後も要望活動を継続していきます。それでは参加されたメンバーの声をお届けします。

「自分は接客業で就職を目指してカフェガーデンさらにで実習をしています。さらのように障がいがあっても安心して働けるような店を増やしてほしいです。」

「自分はアレルギーなどもあり様々な病院に通院する必要があります。就職した際に、月に複数回にわたる通院に対しても配慮してもらえるような制度を作ってもらえるとありがたいです。」

→さらのように障がい者が主体となり働ける店はあまり見かけません。ぜひ拡充されるといいですね。

→障がい者雇用の受け皿は広がりましたが、通院の配慮は月に一回までとしている会社がほとんどです。必要な医療をきちんと受けられることは安定した働きにつながります。 貴重なご意見ありがとうございました。

横 浜 S S J 事 業 所 か ら

<<就労継続支A型事業所 横浜SSJ久保山・戸塚事業所>>

今年度より、長年にわたり一職場・一事業所として運営してきた斎場業務である「久保山事業所」「戸塚事業所」「北部事業所」を法内事業へ移行し、就労継続支援A型事業所として運営が始まりました。

きっかけは、「平成27年度横浜市における障害者就労施設等からの物品等の調達方針」が策定され、斎場委託業務は、調達方針の対象となる障害者就労施設に該当しなければならないので、当法人事業所が対象となるよう検討していただきたい、という話でした。

何十年も援助付き雇用の職場として続けてきた法人としては、簡単に承諾できることではありませんでした。働いていただいている従業員（当事者）の皆様は、いろいろな経験・訓練をされて、一般就労という形で誇りをもって働き続けてきました。現行のまま要望という形で働き掛けを継続すべきという意見もある一方

事業継続ができず雇用の場が失われ多くの従業員が失業の可能性もあるのではないかという意見もあり、約 3 ヶ月間理事会で検討を重ねた結果、事業継続と雇用の場の確保を最優先した結論に達しました。

とはいえ、従業員には生活面でサポートを受けている関係機関があり、総合支援法に基づく施設の場合は二重在籍できないという大きな壁がありました。従業員にとっては一般就労から施設利用者に逆行してしまう結果もあり常任理事・各施設長・従業員数名で、「法人組織在り方検討プロジェクト」を立上げ、約 3 ヶ月強検討してまいりました。関係機関にも説明会を設けて、昨年の総会でようやく承認を得て、そこから約 10 ヶ月間は申請から準備で大忙しでしたが、4 月から無事にスタートすることができました。

まだ始まったばかりで四苦八苦しておりますが、まずは従業員の皆様が変ることなく斎場業務を継続できたことに安堵しております。
(横浜 SSJ 久保山・戸塚事業所 施設長・津田朱音)

<<就労継続支 A 型事業所 横浜 SSJ 北部事業所>>

従業員さんに、「仕事をしていてどうですか」とインタビューしてみました。

僕は、北部事業所へ異動してくる前は瀬谷本郷公園で仕事をしていました。そこでは、トイレ清掃と受付その他を一人でこなしていました。ですが、北部事業所で働き始めてチームワークの大切さを学びました。様々な先輩方と組んで仕事をするので最初は不安でしたが、必死に仕事を覚えてなんとか 5 年、働き続けています。

仕事が終わったら、みんなで「お疲れ様です」と言い合う時が好きです。



北部事業所 K.N

<<多機能事業所>>

◇横浜市立大学 看護学科講演依頼◇

今年度、横浜市立大学看護学科の授業でワークショップメンバーズの高松宏和さんが講演を行いました。高松さんの感想をお届けいたします。

4 月 19 日、横浜市大の看護学生の授業に講師として招かれ、学生さんの前で講演を行いました。最初この話を聞いたときはあまり難しく考えていなかったのですが、実際に 100 人の学生さんを目の前にすると、とても緊張しました。

話の内容は、今までの病歴、入院時の体験談といった感じです。相手が看護学生さんなので、今まで自分が入院してかかわった看護師さんや、自分についてくれた看護学生さんの話もしました。皆さん真剣に聞いてくれました。自分の話をしているときは良かったのですが、質疑応答の時になって、緊張のあまり足が震えだしました。私以外にも、当事者 2 人、家族の方 1 人が来て話をしました。3 人の話は、私にとっても勉強になる話でした。

後日、授業に参加していた学生さん 100 人全員から、私の話を聞いての感想文が送られてきました。皆さん私の話をよく聞いてくれていたようで、心のこもった感想文でした。

今回の経験は、私にとってもとても貴重な体験でした。またこのような機会があれば、ぜひ参加したいです。

【日産スタジアム・マリノスバザー報告】

本年度のサッカーシーズンで4年目になるバザーについて、参加したメンバーさんより感想をただいております。5月20日は27℃の夏日。7月29日は、途中からの降雨で、大雨警報に緊急車両の出動があった大荒れの天気でしたが、脱落することなく片付けの最後まで参加できました。

自分の“可能性”を知るきっかけになった

ワークショップメンバーズに通所して2年半が過ぎました。元々手先が器用なのでミサンガ作りには参加していました。まだ経験していないことにチャレンジをするため自分の活動の幅を広げたいと思い、今回日産スタジアムで行われたマリノスバザーにメンバーとして初めて参加することにしました。

当日はメンバーや職員、他の事業所の方と協力しながら会場のセッティングをし、ミサンガ・アクセサリーの販売をしました。バザー参加前はボランティア活動の一種のイメージが強かったので、あまり売れないのではないかと想像していました。しかし実際は大盛況でオープン前から行列ができ、楽しそうに商品を選ぶお客様を見て嬉しくなりました。

私は対人関係やマルチタスク（同時に複数の物事をこなすこと）があまり得意ではありませんが、メンバーや職員のサポートのおかげで緊張がほぐれ、上手に作業が出来ました。また、他の事業所の方ともコミュニケーションを図ったり接客にも携わりました。商品のレイアウトの仕方などを提案し、他のメンバーが思いつかない斬新なアイデアを考えることも楽しかったです。

今回、人との関わりの場が持てたことで自分には出来ることがたくさんあると確認でき、自信を持てるようになりました。コミュニケーションの大切さや臨機応変に対応する方法を学び、実習先のカフェでも活かしたいと思いました。これからも人との出会いに感謝し、様々なことに挑戦し続けながら得意なことに磨きをかけていきたいです。（ワークショップメンバーズ 発達障がい 31歳 女性）

今回、7月29日に行われたマリノスバザーに初めて参加させていただきました。私は接客業に若干の苦手意識があります。今回は職員や他のメンバーの方々のフォローを受けて参加しました。現地に到着してから、まずは会場作りからのスタートとなりました。他事業所のメンバーさんや職員の方々と共同でのテント作り、声を掛け合いながらの共同作業はコミュニケーションが苦手な私にとってはとてもいい機会となりました。その他にも商品のセッティングやレイアウトを考えるなど、普段の作業では体験しない事を経験させて頂きました。

マリノスバザーに参加するにあたり目標としていたことがあります。それは外部の人たち触れ合うきっかけを大切に、コミュニケーションを図る事です。今回、その目標が達成できたかどうかは正直確信は持てませんが、自分なりに笑顔を作って接客に臨めたかなと思います。次回機会がありましたら自分自身に新たな目標を立てて参加していきたいと思っています。（遠藤）



<<地域活動支援センター すきっぷ>>

**アシカのオットー君が表彰されました！！**

昨年から中区ロータリークラブさん主催で作品展示会が行われています。今年は、すきっぷ全体作品として、「アシカのオットー君」を出展しよう！ということになりました。すきっぷの中では自信のある作品でしたので、展示会に来てくださった方に喜んで頂けるかなと、密かな想いを抱きつつ……。そうしたら、なんと全作品の中で、銀賞をいただけることに。表彰式は、あの伝統あるホテルニューグランド。メンバー、職員共に、晴れの舞台に参加してきました。代表して表彰状を受け取ったメンバーからの報告です。

『すきっぷのマスコットの存在「アシカのオットー君」がロータリークラブで銀賞を取りました。その事を聞いた時「えー、本当。すごい」と、びっくりしました。

代表で表彰状を受け取る時、緊張してガチガチになってしまいました。でも、みんなで作った作品が認められて、すごいと思いました。少しでも作品に興味を示してくれる人々がいると、とても嬉しく思いました。

表彰式の後、私はすきっぷのメンバーの協力の証としてオットー君に銀メダルを作ってプレゼントしました。

これをバネに、もっと色々な作品を作ったり、自主製作活動に活かして行きたいと思います。』 <H.S>

**中区障連20周年行事のボランティアに参加しました。**

中区障連 20 周年を祝う会に行ってきました。私達すきっぷのメンバーは社会貢献のために、ボランティアとしても参加しました。役割は来所者の案内役でした。前日に挨拶の練習をして当時の緊張感を和らげて準備をしました。挨拶の練習でポイントとしては、20 周年を気持ち良くお祝いして欲しいのと、案内人としての責任を持つことでした。

迎えた当日では、会場の設営から始め、座席を外し、各事業所の座席作りをしました。13 時過ぎにお客様が来て案内をしました。私は発達障害を持っていますが、この日は色々な障害を持っている人が来ました。耳の聴こえない人との会話で、私は手話ができないので、手話で「トイレはどこですか」と聞かれた時に戸惑いました。手話が出来なくて少し悔しかったです。私はもう一人耳の聴こえないおじさんと出会いました。その人とは筆談で話をしました。最後に手話で「ありがとう」と言ってくれた時に、私も手話で返しました。ボランティアをやり、自分も人を支えることができると自信になりました。私はすきっぷに入所してから 10 ヶ月が経ちました。今までポムポムや色々な会議に出席、参加しました。そこでたくさん経験しました。これからも、もっと経験を積んでいきたいです。

<すきっぷメンバー・日下部真由>



<<横浜 SSJ 相談支援室>>

今年は4月に事務所を阪東橋に移転し、私自身は5月から育児休暇復帰しました。

久しぶりにお会いする利用者の方々から「育児と仕事の両立大変じゃないですか、身体壊さないようにして下さいね」と暖かい言葉をかけて頂く場面も多々あり、利用者と支援者という枠に囚われない、思いやりのある会話に私自身が支えられ、仕事が出来ている事を有難く感じています。

平成24年4月に障害者自立支援法の施行から計画相談が始まり、平成26年8月より相談支援室が開設され、あっという間に丸3年が経ちました。始めの頃は計画相談自体のシステムを理解、実行するのに戸惑う事も多々ありましたが、ようやく落ち着いてきた様に思います。また、計画相談を利用される方やこれから利用しようか検討して下さる方も増え、そういった方々が「計画相談を利用して良かった」と言ってもらえる様に相談支援室では試行錯誤しスキルアップに努めています。

(横浜 SSJ 相談支援室 谷崎 育子)

～今回は利用者の方から頂いた声を紹介します。～

私は23歳の時に障害者となり、その後は仕事と入退院を繰り返しながら、病院のデイケアに15年程お世話になりました。デイケアのプログラムは楽しいものでしたが、月日はあっという間に過ぎ、気が付くと40歳を越えてしまっていました。このままでは歳ばかりとってしまうとの危機感が募り、就労継続支援B型事業所に入所しました。そして計画相談というサービスを受ける事になりました。

私が計画相談で良いと思う点は2つあります。1つ目はひと目で解る自身の週間スケジュール表です。これにより、体調をみながら通所時間と通所日を少しずつ増やす事が出来ました。

二つ目はモニタリングです。仕事や人間関係、その他の目標を設定し3ヶ月ごとに見直す事により現在の達成度が分かります。

現在は薬も減っており、体調もよく就労に向けて良い状態だと思います。この調子をキープし、就労に結び付けていきたいと思います。

(S. I)

メンバー・従業員の 「声・こえ・コエ」

今回は ～医療～ をテーマに、皆さんに思いを表現してもらいました。

～～医療についてあれこれ考えてみた～～

精神科以外の身体科を受診すると「精神科に通院しているのはそんなにも特別なことなのか」と思うことがあります。いくつかの身体科を受診して、複数の病院の医師に「その症状を精神科の担当医にも報告してください」とか、「この薬が効いたのなら身体的原因ですね」とか、「今度受診するときは障害者手帳を持ってきてください」とか、カルテのようなものに[精神科薬の影響か]という文言が記入されていたりとか、担当医制ではない病院でいつも同じ医師に診察されたりとか、「なんで？」と思うことがあります。精神科の主治医も「身体科の医師は、患者が精神科に通院していると、患者のいろいろな症状をすぐに精神と結び付けたがる」との趣旨の発言をしていました。

ただ、冷静に考えれば、精神科に通院していることは特別なことではなく、身体科の一定の配慮の上での対応だとは思います。

それから、当事者間で精神科に入院した経験があるかないかで、なんとなく壁のようなものを感じることがあります。私は精神科に入院したことはありません。それをほかの当事者に言ったら「入院したこともないのに障害者なの？」と言われたことがあります。確かに入院は大変つらく厳しいものだとして理解しています。でも同じように、私の場合、薬を飲んでいるから何とか簡単な日常生活を送ってるのであって、医師にも、家族にも就労は困難とみられています。私もその考えに異議はなく、少しずつ小さなことからいろいろ経験していくのが、回復への道だと思っています。医師にも、「回復に一番重要なのは、本人の治したいという気持ちだよ」と言われました。ただ、私は発病が大変早く、なんとなく精神年齢が低いような気がします。いろいろな経験を積むことが重要なのはよくわかっていますが、私の悪い癖で、なんでも病気のせいにして嫌なことから逃げようとする傾向があります。まずは、そういう認知を変えていくのが重要ななと思っています。これからも病気とは長い付き合いになると思います。うまく折り合いをつけて医療をしっかりと利用していきたいと思っています。

(すきっぷ A・M)



～～理想的な医療～～

皆さんはこんな経験はありませんか？

「医師や看護師の感じが悪い」「医師が病気の説明をせず薬を出すだけ」「入院中冷たく扱われた」「子供のころ怒られたのが今でもトラウマ」等々・・・

私自身も、子供の頃歯科で理不尽な理由で怒られたのが今でも軽いトラウマです。特に精神障がい者には病院そのものに苦手意識があると、という方々が多いと感じます。

私は医療業界の現状などは殆ど知りませんし、患者の立場でしかものを言えませんが、精神科や心療内科だけではなく、他の内科や外科や歯科等の医療でも心のケアが大事だと思っています。

「この病院はいい感じ」「ここの先生や看護師さんは優しい」

のようなことを感じたならば、その病院は心のケアもしっかりしてくれるということだと思います。医師不足が社会問題になって久しく、良心的な病院だけじゃないのも現実です。

以前、一部の大型病院では流れ作業のような状態になっているといった話も耳にしたことがあります。

今はセカンドオピニオンという言葉が殆どの方が知っている時代ですし、精神科だけに限らず、自分に合う病院や医師を見つけることが大切だと思う今日この頃です。

(K・W)

～～「過去と現在」～～

精神科には高校二年の時に門をたたきました。もともと軽度知的障害があり、それに加え強迫神経症、吃音がありましたが、親は何も言わず自分も病気だと分からなかったので病院には行かないでいました。高2の時に吃音がひどくなり学校で出席をとるときに「はい」と言えず、アルバイトをしていたのですが「ありがとうございました」が出てこなくて死にたくなり、親と相談して精神科に行きました。

病院に何年か通っているうちに、強迫神経症、軽度知的障害なのも分かり、辛かったのはこの病気のせいだったのかと分かり、心の中で安心できました。

始めは精神が不安定で病院の中に入った途端、泣き出したりして大変だったのですが、今は情緒面で安定し、笑顔も多くなりました。先生に今、病気の事で辛いことや悩んでる事、困った事などを話すと話も聞いてくれますし、アドバイスも頂けるので大変助かっています。

薬は飲み続けて 16 年になります。コロコロ薬は変わっていますが、今は自分に合う薬が見つかりました。服薬によって辛い症状は抑えられて良いのですが、辛い事

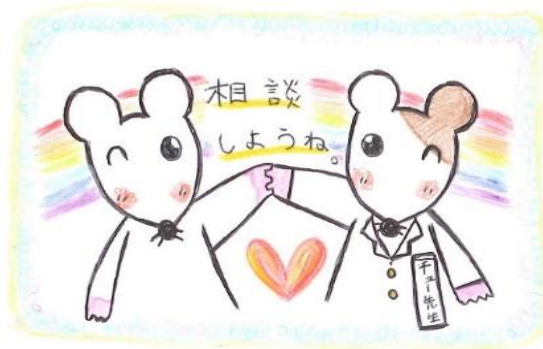


はやはり眠くなってしまうことです。作業所で仕事に耐えられなくなり、仮眠を取らせてもらう日もあります。ですが眠気についても先生と相談して、薬を飲むタイミングを考えて下さったりアドバイスを下さったりして、眠くなる日も少なくなりつつあります。

今では病院で泣いていた時などと比べて気分が明るく、楽しく過ごすことが多くなり成長も実感し嬉しいです。病気や薬と付き合うことは楽なことではありませんが、先生や作業所の職員と相談しつつ、うまく人生を過ごしていけたら良いなと思っています。

まずは A 型事業所で働く事を目標としているので頑張りたいです。

(ネズミ大好き)



～～「過去の自分から回復への一步」～～

私は、体調を崩す前、医療とは無縁でした。例えば、風邪くらいなら寝たらなんとか治るだろう。という考えでしたので、体調を崩した時は数日間ずっと泣き崩れ、自殺願望が芽生えてしまい、家族が懸命に探してくれた精神科医療の病院を渡々、受診することになりました。受診の時は先生と全く会話をする事も出来ず、付き添ってくれた家族が私の様子や状態を先生に伝えてくれて、処方箋が決まっていきました。当初は、体調が優れない日が多く、家族に処方箋だけでも受け取りに行ってもらっていた時もありました。私ははじめて処方箋を服薬する時、母に「この薬を飲んだら、辛い思いも少しは楽になるかな？」と号泣しながら服薬をした時の思いを昨日の事のように思い出します。

精神科医療・服薬のおかげで体調も少しずつ良くなり、仕事を始めたことにより、同じ境遇の仲間と出会い、仲間の優しさに触れ合うことが出来、心のバランスも少しずつ取り戻すことが出来、体調の回復へと繋がりました。

私がお世話になっている精神科病院はとても待ち時間が長く、時には半日を病院で過ごすこともあります。先生は、私の話をとことん聴いてくださり、私としてはとても合っている精神科病院、信頼出来る先生と巡り合うことが出来ました。

今後も先生にお世話になりながら、体調を崩さないよう、医療の力をお借りしてこれからもずっと、長く仕事を頑張っていきたいと思っています。

(北部事業所・飯塚 真弓)

私が体調を崩したのは 23 歳の時です。住み込みのアルバイトをしたのがきっかけでした。不規則な生活と上司のウマが合わず体調を崩しました。当時、通っていた学校の保健室へ行くと精神科を紹介されました。出された薬が合わず、ますます体調を崩し、それ以来医者へは行かず 2 年後精神病を発症しました。2 ヶ月入院した後、現在のクリニックに通うようになりました。私がクリニックに通うようになった頃、丁度デイケアが開所しメンバーになりました。当時の私はデイケアという言葉も知らなければ、自分がいきなり障害者という立場になった事を受け入れる事も出来ませんでした。それまで当たり前に出来た事も出来ない、アルバイトをしようとしても出来ない、人とコミュニケーションを取ろうとしてもうまくいかない、家族に病気を理解してもらえず、早く仕事しろと親に急かされ、そんな時の支えがデイケアのスタッフやメンバーでした。自分が抱えている不安、焦り、プレッシャー、それを聞いてもらえ、理解してもらえ。自分の気持ちを肯定してもらえると安心感を得られるという事を知りました。近所の目を気にし、親戚の目を気にし、学生時代の友達を避け、そんな時の支えがデイケアでした。デイケアにいる時だけは自分が自分らしくいられました。それでも、いつまでこんな生活を続けて行くんだろうと、憂うつな日々でしたが、デイケアに通い始めて 10 年が経った時、心境の変化がありました。この 10 年は大きかったと。知らず知らずの内に家族と向き合い、親兄妹の気持ちを考えるようになっていました。病気になる前は自分の事しか考えていませんでした。体調を崩す事を繰り返している内に、いつも怯えるようになってしまった私ですが、人間的には病気になる前よりは成長したのではないかと思います。デイケアのスタッフとの面談の中で見えてきた私の課題は、いかに自分の自尊心を取り戻すかという事です。職場の温かいメンバー、スタッフの支えの中で、それを取り戻して行きたいと思います。

デイケアは病院です。でも私には病院という意識はありません。メンバーだけでなく、受付の職員も含めて、スタッフとの関係が私に病院という意識を感じさせないからです。通い続けた時間が与えてくれたものだと思います。

(匿名希望)

フリースペース

SSJ を利用している方々には、多彩な才能を持っている人がたくさんいます。

その方々の持っているモノをご紹介します。このコーナーです。

「私のシダ植物の原点」

SSJ ニュースの一環としてシダ植物について語ることにピンときません。過去の職場や作業所等を通じて初めてのことだからだと思います。でも、初めに云うと植物にまったく興味のない人にはこの記事を読むのは多分面倒なので差別的ですが少しでも植物に興味のある人に限ります。

北部斎場に通わない日は森林公園、山、海岸等に行っておシダ植物を一部切り取るという採取の仕方をします。残念なことに昔から心無い人によって希少植物等を根から掘り起こすという所謂個体数を減らす採取を種の保存に支障を来す位行われることがある為、今やどの森林公園や山等へ行っても動植物の採取を禁ずる看板を見掛けます。これも、私にとっては残念ですがでも私は特に気兼ねなくシダ植物を部分的に採取します。種の保存に支障がでるとか種の同定に必要と思う以外は原則として植物体そのものを持ち帰ることはしません。必要な情報源だけを切り取るだけで充分です。

SSJ のメンバーとどの山へ行ってもどうだったか等、雑談することがあります。それで、誤解されることが多いですが、私の場合はどの山へ行ってもどうだったか等は残念ながら（？）二の次でどの山にどんなシダ類やどんな生態的特徴があったか等を知ったり手にしたり、写真に撮ったりする方が山や海辺等に臨むには重要なのです。もちろん登山そのものや景色を見て、写真に収めることも楽しめますが・・・

シダ植物の特長や魅力とは何か？一言で云うなら、難しさそのものではないでしょうか。それが解らない人には残念だけど語りようがないかもしれません。といっても、植物の中でシダ類が最も敬遠されています。書店で花を咲かせる草や木（以下、種子植物）に関する図鑑が多く次いで、キノコに関する図鑑があって、シダに関する本は殆ど見られません。いくらシダが難しいからといっても綺麗な花を咲かせる種子植物ばかりが植物ではないと思うのは私だけではないと思います。しかし、シダに関する本は私も三冊くらいは持っていますが、専門書を別としても初心者にも理解しやすいように記述してある本はひとつもないと思います。検索の仕方や種の写真や記述は載っていても扱っている種は限られており、専門家によっても見解が分かれています。これでは一層難しい感じがして敬遠されるのも無理ないかもしれません。種子植物に興味を持ち、ある程度種名を覚えると、次はシダ植物に興味を持つのがよくある流れです。しかし、種別の目安となる花がシダにはないので記述や写真の乏しい市販の図鑑で名前を探すのが難しいあまり、シダへの興味を止めてしまう人が多いというのがよくある傾向です。



シダ植物は種子植物に比べて目立ち難い様に生育している種が多くて鬱蒼と目につく種は限られています。花は咲かないが生態系の重要な指標になっています。それゆえに興味を持つという人は少ないです。一般に知られているシダはウラボシ・ワラビ・ツクシ・ゼンマイ等ですがこれらがシダ類であることは知っていても種子植物は別の植物群であることを知らない人は多いです。

うるさいことを書きましたが本題に入ります。

もし私にもう少し専門的な知識や研究歴があれば、シダは難しいけれど興味は尽きないという人に少しでも種名の探し方のヒントになれる本をこれまでの経験を生かして書けたらいいと思います。シダの魅力について定義出来ませんが、それは種子植物よりも古代から現代まで生命史を営んでおりその多種多様性、生態的指標性は種子植物に引けどらないというところでしょうか？これ以上のことは SSJ ニュースの枠を超えてしまいます。今回の私の初めての SSJ ニュースとしてシダ植物について触れましたが、シダについて話が出来る人が出てくればと勝手に思います。

(北部事業所従業員 T.S)





横浜 SSJ



新 人 職 員 紹 介

みなさん、はじめまして。横浜 SSJ 久保山・戸塚事業所の小澤大夢です。私の生まれは岩手県で、高校を卒業するまでずっと岩手に住んでいました。大学進学を機に、地元を離れ、北海道の福祉系の大学に進学しました。4 月に入職してから早いもので約 5 カ月が経過しますが、ようやく、ここ横浜での新生活にも慣れ、先輩職員、従業員の皆様のご指導のおかげで仕事も徐々に覚えてきたところです。

私が福祉の世界を選んだきっかけは、大学在学時、偶然手にした本に強い衝撃を受けたからでした。その本は、女性の貧困をテーマにした本でしたが、貧困の中にある生きづらさや、生活のしづらさ等、私自身は特に、精神的な側面に強い関心を持ち、その生きづらさを何とかしていきたいという思いを抱いたことが福祉の世界に進むきっかけでした。

みなさんの声に耳を傾け、安心感を与えられるような職員になるべく、笑顔を大切にこれからの業務に励んで参りたいと思います。まだまだ未熟ですが、どうぞよろしくお願い致します。

(横浜 SSJ 久保山・戸塚事業所 小澤大夢)

ジョブアシスト横浜に配属になりました内田智子です。

15 年振りに現場で直接利用者さんと関わる仕事に戻ってこられて、とても嬉しい気持ちです。

利用者さんと一緒に作業していると一日が過ぎるのがあっという間です。帰り路で、もっとあの利用者さんと話がしたかったな、あの場面でこうしたら良かったかな、〇〇さんのこんな一面を発見できたかななどと振り返る毎日を過ごしています。

この職場に来て強く感じる事は、一人では利用者さんを支援する事はできないという事です。利用者さんが調子を崩している時など、どんな働きかけをしたら良いのか悩む場面があります。そんな時相談できる先輩がすぐ近くにいることは、長年少人数の部署で事務職をしてきた私にとって、大変心強い事です。

また、利用者さんが自分のことをいろいろと話してくれるようになった時はとても嬉しい気持ちになります。一人ひとりの方と出会え、すぐ横に居られてチームで取り組めるこの仕事にやりがいを感じています。

利用者さんがやりがいを持って活躍できるようサポートし、私自身も成長できるよう頑張っていきます。どうぞご指導よろしくお願い致します。

(ジョブアシスト横浜 内田 智子)

“すきっぷ” に 7 月度から入社しました嘉陽（かよう）です。横浜生まれで 20 歳まで横浜で育ちましたが、その後は家族の関係で引っ越しが多い生活を過ごしてきました。やっと落ち着けるようになったのでこれからは横浜での生活を育んで行きたいと思います。“すきっぷ” では、まだまだ慣れない事が多く学ばせていただいている状態ですが模索しながら「同じ日は二度と来ない。メンバーさんの為に何が最善か？」を意識し“すきっぷ”のスタッフとして日々過ごしています。時間が過ぎるのが早く感じる毎日なので一日一日を大切に重ねていけるよう努めています。そして人生は人との出会いで大きく変わると思います。SSJ で多くの方との出会いと時を過ごせる事を楽しみにしています。どうぞよろしくお願い致します。

(すきっぷ 嘉陽 りゅう)

4 月から北部斎場に常勤職員として配属されました、成田智博です。私は大学で福祉と心理学を学んできましたが、大学の恩師の「心理的な支援を行っても基となる問題が解決されなければ意味がない」という言葉に共感し、心理ではなく福祉の道に進もうと決め、現在に至ります。私が、今の仕事で嬉しいことは従業員さん（当事者）に「成田さんがいてくれると嬉しい」等の言葉を頂いた時です。

やはり、こういった言葉を頂いたときは、頑張ったかいがあったなと感じ、今後も頑張ろうとモチベーションが高まります。逆に、大変なことは、非常に気を使いながら仕事をするということです。なぜなら、人それぞれ感じることや受け取り方に違いがあり、ちょっとしたことでかなり傷つけてしまう恐れがあるからです。また、私の学部では精神分野の講義がなく、その特性や接し方が分からないということも理由の一つです。毎日、気を張る職場ですが、今後も従業員さんに信頼していただけるような支援者になるために頑張っていきたいと思います。

（横浜 SSJ 北部事業所 成田智博）



2017 年 7 月よりワークショップメンバーズの印刷部門に加入させていただきました山之内 絵美と申します。旧職は「印鑑屋さん」とちょっと異色の経歴ではありますが、名刺や封筒、チラシなどの印刷も担当していました。情報の伝達ツールとして最近ではホームページやツイッターでなんでも発信できますし、相手に何かを伝える為に書かれてきた手紙はメールやラインにほとんど代わられています。紙を使ったものってこれからどんどんなくなってしまうように思えてきてしまいましたが、紙には紙の表現の幅があると思っていて、特に人の手で仕上げたものは特別伝えられるものがあるという信条があります。あたたかさ、味といわれるものもありますが、求められているものに近づけるため試行錯誤しながら、また受け取る人を思いながら誠実に作ったものは必ず相手に伝わります。依頼をしていただいた方から「こういうの欲しかった！」と言ってもらえることは非常に嬉しいです。そんなものづくりの環境を与えていただいたことに感謝しつつ、これからも求められる商品を確実に届けられるよう、一生懸命務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（ワークショップメンバーズ 山之内 絵美）



<<会費・寄付者納入報告>>

2017 年度 4 月から 8 月末までの会費・寄付の状況です。

・個人・団体会費 81 名 ・寄付者 3 名

～～いつもありがとうございます。精神保健福祉向上のため、大切にに使わせていただきます。～～

<編集後記>

政党懇談会に出席しました。私は就職活動をしています。ハローワークなどでも求人が少ないと感じていたので「障がい者雇用の求人をもっと増やして欲しい」と直接議員の方々に伝えられ安心しました。また最後まで懇談会に参加できた事もいい体験になりました。（お）